

高石市議会議員

木戸あきららの議員報告
市民主役宣言!

経歴 東羽衣小学校～中央大学法学部卒、商社勤務後現職、他に社会福祉法人理事長、大阪ベイエリア NATECH 会員

議員歴 高石市議会議員(4期目)

会派 “市民の声”所属(木戸あきら・山敷めぐみ)

市議会議員の約半数が、 令和3年度決算認定に 反対しました。

私は、今まで幾度か決算認定には反対しましたが反対票は少数でした。しかし、この度の令和3年度決算認定については、賛否7対7でした。議長決裁で決算は認定されましたが、多くの議員が本決算内容に疑問を持っていることが明らかになりました。

出席議員数		賛成		反対		総投票数										
15		7		7		14										
X	X	O	O	X	X	O	O	O	O	X	X	X	-	O	-	-
1番	2番	3番	4番	5番	6番	7番	8番	9番	10番	11番	12番	13番	14番	15番		議長
松田 亜季	明石 宏隆	阪口 茂	吉田 佳代子	木戸 晃	山敷 恵	印丸 裕久	二瓶 貴博	久保田 和典	寺島 誠	松本 善弘	永山 誠	畑中 政昭	森 博英	清水 明治		

1

木戸の決算反対理由は次ページに掲載しています。



借金増は×、 お金の使い方を改めて！

3月議会報告でも掲載しましたが、高石市の借金返済率(令和3年度、実質公債費率、13.1%)は府内43市町村のワーストクラスです。にもかかわらず、令和3年度決算では、前年よりさらに、

5億6千8百万円の借金を増やしていました(市債33億1,100万円計上)。

内容についてですが、阪口市長が社長を務める高石駅前アプラビル1、2階の改修工事に対し3,500万円を出資したり、阪口市長が会長を務める健幸まちづくり協議会へ約8,400万円、各種コンサル代の支払いなど、市長お気に入りの事業への支出を優先した一方、

コロナ禍で所得が激減した世帯に対する支援、あるいは、コロナ感染された世帯への支援など、他市なら当たり前に採用した高石市独自の施策が極めて少ない決算でした。

行政は、今、市民に何が必要かを基準にせず、国が進める補助金施策を市の施策として採用し、結果として借金を重ねています。さらに、今期令和4年度予算でも、借金をして総額6億円の高石駅前芝生化工事を計上しています。

これではいつまでたっても“一般財源”に余裕ができません。余裕がないと高石市独自の施策は充実しません。お金の使い方を改めていただきたいとの思いでこの決算の認定に反対しました。

では、先進他市はいったいどんなお金の使い方をしているのでしょうか？

今回の言葉

“一般財源”

高石市の施策を実現するための財源は、おおまかに、国、府からの補助金等と、市民から頂戴する市税等の一般財源にわかれます。

例えば、コロナワクチン接種や、全市民への3,000円配布事業など、国の施策には国がほぼ100%お金を用意します。

一方、同じコロナ対策でも、私が提唱していた“全市民対象PCR無料検査”などは、高石市独自の施策になりますから、**一般財源**を使います。

また多くの国の補助金事業には、市に対して応分の借金を義務づけていますが、この借金の返済はすべて**一般財源**から行います。



先進他市のお金の使い方を見てみましょう！

中核市の中で **人口増加率 NO.1 の明石市の施策**

(令和4年6月、参院参考人質疑での和泉市長の説明から抜粋)

明石市独自の5つの無料化施策

高石市

おむつ、満1歳まで無料で宅配する。(所得制限なし)

制度無し

給食費中学校まで完全無料(所得制限なし)

有料(一部無料)

医療費18歳まで完全無料(所得制限なし)

(令和4年10月から500円で)

保育料第2子以降のこども全員無料(所得制限なし)

有料(一部無料)

一時預かり施設など"遊び場"使用が完全無料

有料(一部無料)

明石市独自のコロナ対策

高石市

高校進学への給付型奨学金制度実施(予算1億円)

制度無し

大学の学費の立替払実施(上限100万円)

制度無し

ひとり親家庭に、国の施策に加えてさらに5万円支給(所得制限なし)

(高石市は3万円上乗せ支給)

全ての子どもへの10万円支給(所得制限なし)

制度無し

生理用品の無料配布(明石市立小、中学校のトイレに常設)

制度無し

少人数学級の実現
(小学校1年生は30人学級、中学校35人学級)

国基準35人(小1~3)
40人(小4~中3)

明石市の実質公債費率は 2.8%です(高石市は13.1%)

明石市は大きな借金をしないで一般財源を残して明石市独自の子どもの支援策を実行した結果、明石市は人口増に転じました。

【明石市の出生率1.48(2010)→1.62(2020)】

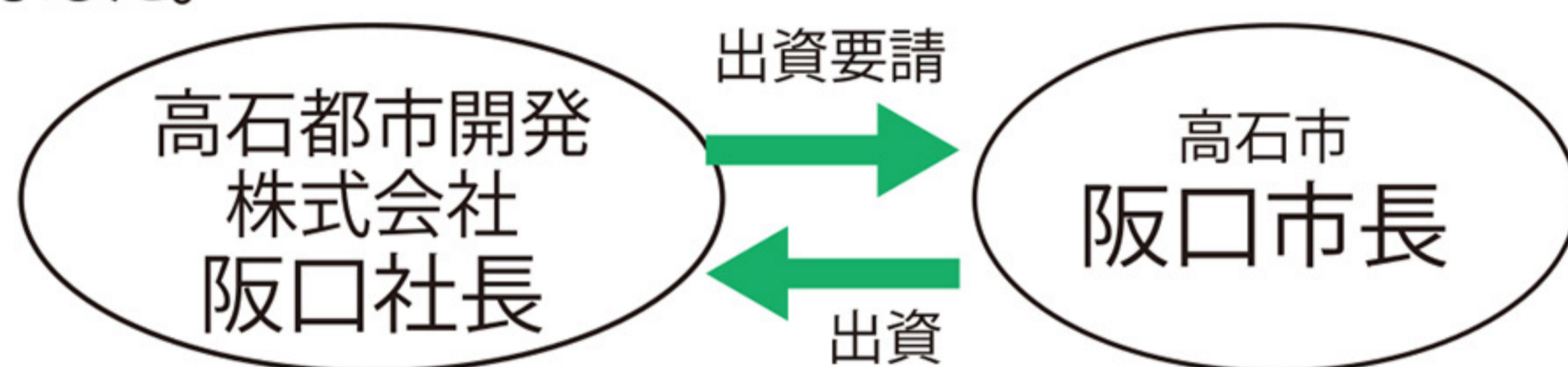
芝生美化、道路整備にお金をかける市がいいか、子育て支援にお金をかける市がいいか、市民の皆様もお考え下されば幸いです。

その他、9月議会で木戸が質疑したこと (抜粋)

① アプラリニューアル工事は精査が必要



令和3年度決算報告によると、高石市からアプラビル管理会社である高石都市開発株式会社へ出資金 3,500 万円計上し、1, 2階のリニューアル工事に使われました。市長と社長が同じ阪口伸六氏であるということが問題です。同じ人物が出資を要望し出資する、この双方代理は議会が認めて成立するので、議会が精査すべき案件と、私は「議会にこの社の決算書など報告案件として公式に提出してください。」と申し上げました。



行政からは、「高石市のこの社の株式保有率は 43%。法律では 50%を超えない場合、議会に報告案件として提出しません。」という答えでした。

さて、その答えに最適な解は、阪口市長自らが議員時代に要望されていました。「市がこれについては議会に示したいということ言えば、当然示せるじゃないか」と。市長になった今こそ市長ご自身の要望実現のチャンスです。議会へ報告ください。

② 津波避難ビルの数を増やしてください

いまや、高石市の 65 歳以上の高齢者は 15,754 人 (R4 年 10 月 1 日時点) です。年を取って最も不安なことは歩いて避難できるかということ。南海トラフ大地震が起こって津波が来るまで 100 分。100 分あっても、がれきだらけになった道路を歩いて避難するには限界があります。半径 100m 範囲に避難ビルがないと実効性はない。現在市内で 39 か所のビルが津波避難ビルとして指定されているが、さらに避難ビルを増やすように要望しました。



次のページは石油コンビナート防災の直近の進捗情報です。

101の小規模タンクの漂流対策はできていません！

大阪府の第3期石油コンビナート等防災計画重点項目の“進捗状況”が、令和4年9月に発表されました。

令和3年度(R3年4月1日～R4年3月31日)に実行された分です

重点項目	概要
① タンク配管への緊急遮断弁の設置 (許可容量：500kL以上)	・緊急遮断弁の設置 ・弁閉止の作業手順策定及び訓練実施などの代替措置の確立
② 重要施設等の浸水対策	・非常用発電機などの高所移設 ・高所への移動の作業手順策定及び訓練実施などの代替措置の確立
③ 小規模タンクの漂流対策 (許可容量：100kL以上 500kL未満)	・管理油高(下限値)の見直し ・強度計算により確認されたタンクのアンカー等での固定 ・タンクの自動注水装置の設置
④ 有害な化学物質の漏えい等に備えた初動体制の整備	・定置式検知設備や検知管での測定体制の整備 ・初期対応のための保護具の従業員への配付 ・近隣への影響が懸念される場合のマニュアル整備
⑤ 津波避難計画の見直し	・常駐する協力会社従業員を含めた避難の規程整備及び訓練実施 ・定期修理等による一時的(1か月以上など)な作業員増加への対応
⑥ L2(想定最大規模)高潮(地震・津波を除く)に備えたソフト対策	・高潮が予想される段階での事前の対策の実施
⑦ 近隣事業所等への情報共有の強化、事故時の広報・連絡手段の整備	・近隣事業所や一般地域との連絡手段(スピーカー、広報車、SNS等複数の広報手段)を複数確保
⑧ プラント保安等におけるIoT・AIの利活用	・運転保安・設備保全へのIoT・AI等の導入

重点項目	既設の状況			R3 未施設数
	R2 末時点施設数	R3 廃止数	R3 対策実績	
重点1 すべての主要なタンク配管への緊急遮断弁の設置 (許可容量：500kL以上)	109	▲14	5	3
	37	▲1		36
	22		▲3	19
	171	▲7		3※
	6		▲2	4
合計	345	▲22		6
重点2 重要施設等の浸水しない場所への移設	84		2	86
	65		4	69
	75		▲6	69
合計	224			224
重点3 管理油高見直し	78		24	1
	7	▲1		6
	22		6	28
	3			3
	8			8
未対策	131		▲30	101
合計	249	▲1		252

重点項目の3番目に：小規模タンクの漂流対策とありますが、

阪口市長は「・・・小規模タンクがドンブラッコと流れ出るとは考えられない」と答えられました。(令和3年12月議会、木戸の一般質問に対して) 想定すらしない。

令和4年9月議会も私の石油コンビナート防災に関する質問に、「これだけ私はやってきました。」という趣旨の答えばかり。

では、小規模タンクの漂流対策はどこまで進捗したのでしょうか？



R4年9月発表によると、令和4年3月末時点、101の小規模タンクの漂流対策はできていません。

私は東日本大津波の後に訪れた気仙沼市の光景が目に焼き付いて離れません。23基あった小規模タンクの内、22基が漂流し市内住居地域に入って引火、その結果、気仙沼市は黒焦げになりました。

未対策の101基は気仙沼市で漂流した22基の約5倍にあたります。特に、羽衣、高師浜、千代田の湾岸近くにお住いの市民の皆様は、水平避難目標と垂直避難ビル(スーパーなどの吹き抜けがある場所は防火施設としては適しません。)をご家族と共有しておいてください！

その他、重点事項4～8については、「大阪府石油コンビナート等防災計画」第3期対策計画(令和3年度分)の進捗状況を用いて来たる11月26日開催予定の「木戸あきらの市民講座」で説明します。

コロナは 終わってません!

世間がコロナは終わったと気を緩めても、行政は常在戦場であるべきだ。

ヨーロッパでは新たなコロナ株の感染者が増えていますし、国内では、北海道の感染者数増加も気になるところです。

高石市の危機管理は最悪を想定しているとは言えない。コロナ対策で、何年も前から無料PCR検査センター設置を要求したが、第7波を終えた今、検討もしないままで、結局大阪府が高石市内で実施しました。この間、発表はされませんでした。高石市内介護施設でコロナに感染して亡くなられた市民もいらっしゃいます。今も危機感があるから多くの介護施設ではご家族といえども面会禁止が続いています。

和田秀樹さんの著書“60歳からはやりたい放題”にこんな一節がある。

・・・日本人は「起こってほしくないこと」を「起こらないこと」として片づけてしまう傾向があり、その結果不安を放置するがゆえに起こる最悪の事態が、頻繁に起こっているのは事実です・・・。

“最悪を想定して戦略を立てる”という危機管理の手法は、これからの感染症対策、災害対策に必ず必要になってくる。「起こってほしくないこと」を「起こらないこと」と片付けていないか、行政には自問することから始めていただきたいものです。





山敷議員との会派“市民の声” 議会報告会を開催します。

高石市会議員 山敷恵

日程 令和
4年 **11月19日** **土**

1

場所 コミュニティーセンター(デージードーム)会議室1
千代田4丁目5-25 TEL: 072-263-3317

時間 開演予定…10:00 終了予定…12:00

2

場所 パンセ羽衣(羽衣公民館)羽衣1丁目11-22 TEL:072-265-3227

時間 開演予定…15:30 終了予定…17:30

木戸あきらの市民講座



テーマ

石油コンビナート 防災重点事項の 進捗状況の分析

大阪大学 大学院 教授
青木 伸一

日時

令和
4年

11月26日 **土**

開演予定…10:00
終了予定…12:00

場所

東羽衣公民館 集会室 東羽衣3丁目15-30 TEL:072-262-8545

概要

令和4年9月に発表された“第3期大阪府石油コンビナート等防災計画の進捗状況”をもとに、青木伸一教授と内容の分析をします。

ウクライナに
平和を!



以上で**9月議会報告**を終了します。最後までお読みいただき、ありがとうございました。

連絡先 〒592-0003 高石市東羽衣 1-16-19 木戸あきら事務所 072-261-7801 (TEL/FAX)

議会関係は、フェイスブックが一番使っています。ご覧下さい!

公式サイト

<http://kidoakira.com/>